

専門発展科目の科目概要(2) -心理総合領域-

科目区分	科目名	科目概要
心理総合領域	臨床心理学	臨床心理学においては、心理的問題を一般的に解釈するのではなく、個人に即して理解する点が含まれるが、このような理解の仕方と基礎となる知識と態度とを身につけることを目標とする。臨床心理学の主要な理論を紹介するほか、一部描画や物語を創る体験を織り交ぜながら、個々人の内的なイメージの世界に気づき、クライエント個人の内界からの理解から心理療法がスタートし、様々な展開のあることを学ぶ。
	心理学研究法	授業では、研究とは何かについて考えるとともに、実験法、観察法などのさまざまな研究法を学ぶ。さらに、実際の研究の進め方とまとめ方について学ぶ。研究法を理解するために、実際の研究事例も参照しながら、授業を進める。また、研究計画の立て方、対象の選び方、研究で得られた結果を解釈する際の注意点について学ぶ。
	心理学統計法	分散分析や因子分析等に代表される多変量解析を理解する事は重要である。そのような多くの変量を対象に行う様々な統計的手法をR言語を使用しながら学ぶ事がこの科目の目的である。前述の統計的手法を学ぶために、R言語を各受講者が各自のPCにインストールし、そのプログラムを使いこなしながら平均や分散といった基本的データ処理から徐々に、さらに高度な統計の概念の理解を深めていくことを目的として授業を進める。このため、各授業に宿題として与えられた課題（PCを用いたデータ解析と結果についてのレポート）とそのまとめとしての期末レポートをこなすことを必須とする。
	心理測定法	心理測定とは、心理学の研究の中で最も基本となる「データをとること」である。狭義の心理測定は、数量化されたデータを作成することであり、心理現象に対する数値の付与である。心理学においては、他の科学における物理量とは異なり、人間の心理現象を対象とするがゆえに出来合いの測定用具が存在せず、そのために心理学者たちは独自の研究場面を設定し、測定方法や種々の測度を考案してきた。本科目ではそのような測度考案の道のりをたどりつつ、心理学研究の根本である心理測定について理解する。
	人格心理学	従来さかんに議論されてきた、遺伝的要因対環境的要因の論争について紹介するとともに、主要な人格の理論である類型論、特性論、因子論について、これらの理論の発展の過程を含めて歴史的に概観する。また、人格の形成過程や、個人差、及びその変容について論じる中で、現在最も注目されている性格5因子論について、特に詳細に論じていく。
	知覚心理学	心理学の重要な基礎分野のひとつである知覚心理学について学ぶ。知覚は、人が環境から何をどのように取り入れるのかという、心理学の出発点に位置づけられる分野である。生活空間や周囲の人々も環境の一部であるという考えに基づき、人間が自らを取り巻く環境に適応する上での基礎過程となる、人間の情報処理の特性について学ぶ。
	学習心理学	この科目では、ヒトを含めた動物にとっての学習のメカニズムを行動心理学および認知心理学の立場から解明してきた心理学の歴史を主要な学習理論や重要な心理実験を紹介しながら辿る。心理学に用いられている学習に関する基本的用語の意味を正確に理解し、またそれらの用語を駆使して学習の様々な形成を説明できるようにすることをこの授業の目的とする。
	神経心理学	たとえば言葉が話せない時、その原因として、喉や下、口などの構造的な障害、脳の障害など様々なものが考えられる。神経心理学では、特に脳に焦点を当て、脳の損傷が実際の行動や心理にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。本科目では、さまざまな部位とその障害、そしてその結果として生じる種々の障害との関連に関する基本的事項を学ぶ。
	生理心理学	緊張したら汗をかくいたり、心臓の鼓動が早まったりと、生理的反応が見られる。生理心理学では、このような生理的指標の数値の変化を測定することを通して、心の状態やその変化を知ることが目指す。本科目では、これまでの研究史・概要を学ぶとともに、実際の人間関係において活用する理路・技術を探る。
	キャリア発達の心理学	現代の日本においては、これまでの終身雇用・年功序列という雇用形態が変化しつつあり、転職やキャリアアップに注目が集まっている。そのような中でも、勤める前のキャリアへの意識の芽生え、そして勤める始めてからの新任者、若手、中堅、ベテラン、管理職とさまざまなキャリア発達の段階がある。授業では、これらの各段階において個人が経験する心理に関する理解を深める。
	健康・医療心理学	ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題と必要とされる支援、保健活動の現場における心理社会的課題と必要とされる支援について学ぶ。また、近年急増する災害時に必要とされる支援についても言及する。
	発達心理学	発達の仕組みや各発達段階の特長について、乳幼児期から青年期にかけて重点を置きながらも、生涯発達の視点に立って基礎的事項を学修する。この授業では、発達心理学の専門用語を具体的現象にあてはめながら理解でき、具体的現象を発達心理学の専門用語を用いて的確に解説できること、及び、複数の発達心理学的概念を関連付けて多様な視点から発達を捉え、人間の発達を総合的に考察できることを目標として学ぶ。
	教育相談	講義を中心としながら、一部演習も織り交ぜ、演習部分において技法を学修する。担当者は小・中学校におけるスクールカウンセラー経験を有しており、これに基づいて教育現場の実情に触れながら、講義部分では、子どもの適応を支える方略、不適応や問題行動の理解の枠組み、カウンセリングの基礎知識を、演習部分では、カウンセリング実践のための基礎スキルについて、ワークシートを用いた学修など、技法の体験をそれぞれ学ぶ。

対人関係論	人間関係は、互いに知らない状態から、出会い、関係が構築され、維持、変容、そして時に破綻とさまざまな局面が存在する。本科目では、対人関係そのものに構築に焦点を当て、中立関係、友好関係、敵対関係など種々の対人関係の状態における当事者の心理を学ぶとともに、状態の変容のメカニズムや、実際の人間関係の振り返りなどをとおして、対人関係に対する理解を深める。
対人行動論	対人行動の基礎として、対人関係の発生と発達、社会化と向社会性の発達、社会的動機を取り上げる。つぎに、対人行動の過程として、パーソナリティの認知などの対人認知と帰属過程、対人行動と自己との関連性について考察したのちに、対人行動の展開として、向社会的行動や、集団規範と同調・リーダーシップなど、集団の中における対人行動について理解を深める。
対人認知論	人間の乳児は、生後まもなくの段階から人間に対して特異な反応を示すことが知られており、ここに社会的存在としての人間の端緒をみることができるとも言われている。顔パターンに対する反応の人間の知覚能力における特異性をはじめとして、対人認知にかかわる認知心理学的トピックスや社会心理学的トピックスに至るまで、心理学の領域横断的に取り上げ、人間に対する理解を深める。